

さかのぼる数十万年、そして希望

いま、糖尿病を抱えている人が増えています。私の身近にもたくさんいます。さらに将来、もっともっと増えてしまうと警鐘を鳴らしている知り合いの保健師さんを、何年か前に本紙で紹介したことがあります。

で、きょうの絵手紙よろしく、そうとう飛躍するけど、“糖尿病が増えるほど、世界平和が近づくかもしれない”という話。

って、ナンノコッチャ?

まずは、玉子の配達先 Sskさん方での立ち話から。

たびたび本紙でも記事にしてきたTPP(環太平洋経済連携協定)について私が危惧したのに対し、Sskさんは異論を呈されました。どうせならTPPに参加して、経済も地域も徹底的にダメになるのでなければ、日本人の大多数は自分の問題として真剣には考えないだろうというのです。

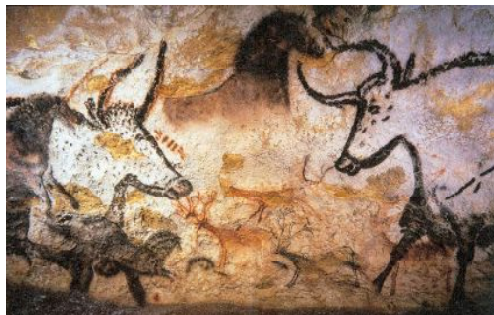
所詮、そこに行き着くまで人は動かないというのが、Sskさん。ひどくなっていく過程でまず犠牲になるのは弱い人からだし、すでに現状がそうになっていることに心が痛むし、人の理性を信じて、少しでも改善のために力をつくしたいと願う私。説明は省略しますが、私とSskさんとの意見のちがいは埋まりませんでした。

それでも、食料と農業をめぐる現状を憂える点では一致していると思います。さらに、これまた飛躍するけど、いよいよ食べ物がなくなったら人は戦争を起すし、それが人の本能だという点でも、残念ながら共通認識だったかもしれません。

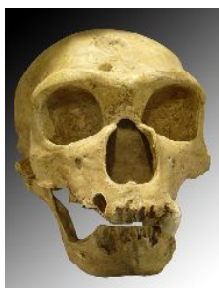
ところが、翌々日。ひらいた新聞のコラムに目を引かれました。上記の残念な共通認識を、私のほうは改められるかもしれない。そんな希望が見えたような気がする内容です。

つまり、遺伝的体質と食生活とのギャップが、糖尿病を増やしている。いっぽうで、心を病む人も増えているが、これは“協奏”の遺伝的体質と、現代社会で強いられる“競争”とのギャップがあるからではないかというのです。

と、はなはだ舌足らずですが、年の初めに、希望ある仮説として紹介しました。どうぞ新しい年もよろしく願いいたします。



現代人の祖先が描いたラスコー洞窟の壁画



上記より数十万年さかのぼる旧人類の頭蓋骨。混血があって現代人にもつながっていることが最近になって学会で発表された。



里のギャラリー 132

飛躍しよう一気(百姓一揆)というタジマシのつもりだったんだけど...

朝の風

人間の遺伝的体質は1万年前とほとんど変わらないという。それなのに食生活が変わった。とくに近年、食生活が欧米化し、1960年の糖尿病患者は20万人だったのが、4年前の厚労省の推計では820万人になった。少ないカロリーで足りる日本人の遺伝的体質とカロリーが高すぎる食生活とのあいだにギャップがあるのだ。

似たようなことは人間の心にもあるような気がする。20世紀前半に狩猟採集社会を調査研究した文化人類学者

助け合いのモラルと競争原理

史の中ではごく最近。とくに新自由主義が競争原理と自己責任論をむりやり押しつけたこの20数年、心を病んで鬱病になったり自殺を

るからではないか。『詩人会議』1月号の詩、大河原巖「いのちの絆は解けやすい」は「ともに生きるための/人間の絆」を「かたく結びなおすことが必須」だとうたい、(資)本にものをいわせるだけの/グローバルな地球上では/いのちの絆を/かたく結びなおすことができない」と警鐘を鳴らしている。(槐)